



日本アフリカ相互理解促進交流プログラム「Japan-Africa Youth Program」



短期派遣プログラム標準日程案

			プログラム	ねらい・内容
オンラインプレプログラム（計3日間）※その他、自己学習、グループ学習あり				
1回目	7月末	2時間	【①オリエンテーション】 【②参加者間交流】	①事業概要、参加者ミッションの説明を聞き、参加者としての自覚と意欲を高める。 ②チームビルディングを行う。
2回目	7月末 国毎	1.5時間	【講義】アフリカ理解講義（アフリカ連合委員会）	アフリカ連合委員会による講義を通じて、派遣国やアフリカ連合の理解を深める。
3回目	出発2週間前 国毎	1.5時間	【①参加者説明会】 【②参加者間交流】	①プログラム内容の詳細、渡航に関する注意点、プログラムルールについて正しく理解する。 ②チームビルディングを行い、結束を高める。
本プログラム（9泊12日）				
1日目	土	午前	国際線出発空港集合 出発前オリエンテーション	事業の目的を再確認し、日本代表としての自覚を高める。派遣国での安全管理や健康管理を確認し、相互理解と友好基盤づくりに主体的に取り組む姿勢を養う。
		午後	離日（成田/羽田空港発）	
2日目	日		經由地乗り継ぎ、派遣国に到着	
3日目	月	午前	【表敬訪問】在派遣国日本国大使館	本事業の目的とミッションを再認識し、プログラムへの参加意識を向上させる。派遣国の政治・経済・外交・歴史・文化を学び、日本との類似点や相違点を考察しつつ、両国関係への理解を深める。
		午後	【視察（日系企業）】日系企業・団体など 【視察】文化・歴史遺産	派遣国で活動する日本企業のビジネス展開や取り組みを学び、経済・社会分野での連携や人材交流の可能性を探る。また、日本のアフリカ進出と、アフリカの持続的な経済成長との関連性について考察する。 代表的な歴史・文化遺産を訪問し、現地の人々の暮らしや歴史的背景を自らの目で確かめ、文化や価値観を多面的に理解する。
4日目	火	午前	【講義】JICA事務所	派遣国におけるODAの現場（技術協力プロジェクトやボランティア活動など）を視察する。関係者や現地の人々との交流を通じて、社会課題の解決に向けた日本の貢献や、国際協力の在り方について考察する。
		午後	【視察】ODAサイト、JICA海外協力隊活動現場など	
5日目	水	終日	【学校交流①】 ・日本紹介セッション ・現地学生からの派遣国紹介 ・現地学生との意見交換 ・キャンパス見学 等	同世代との交流を通じて多様な文化や価値観を直接体感し、新たな視点を得る。現地学生の日本への関心を高めるとともに、両国の関心事項や将来の展望について意見交換を行い、相互理解と友好関係を構築する。
6日目	木	終日	【視察（日系企業）】日系企業・団体を訪問予定	派遣国で活動する日本企業のビジネス展開や取り組みを学び、経済・社会分野での連携や人材交流の可能性を探る。また、日本のアフリカ進出と、アフリカの持続的な経済成長との関連性について考察する。
7日目	金	終日	【学校交流②】 ・日本紹介セッション ・現地学生からの派遣国紹介 ・現地学生との意見交換 ・キャンパス見学 等	同世代との交流を通じて多様な文化や価値観を直接体感し、新たな視点を得る。現地学生の日本への関心を高めるとともに、両国の関心事項や将来の展望について意見交換を行い、相互理解と友好関係を構築する。
8日目	土	終日	【ホームステイ】	派遣国の家庭滞在を通じて、現地の生活事情を実体験する。ホストファミリーとの草の根レベルの交流から信頼関係を築くとともに、日本の魅力を伝えることで地域の人々の日本への関心を高める。
9日目	日	午前	【ホームステイ】	
		午後	ホストファミリー歓送会	
10日目	月	午前	【視察】文化・歴史遺産	代表的な歴史・文化遺産を訪問し、現地の人々の暮らしや歴史的背景を自らの目で確かめ、文化や価値観を多面的に理解する。
		午後	【ワークショップ】報告会準備（プログラム成果のとりまとめ、チャレンジ・プラン（未来への活動計画）の策定）	プログラム中の学びを振り返り、チームメンバーと共有する。チャレンジ・プラン（未来への活動計画）を策定する。報告会でプログラム関係者に発表する内容をまとめる。
11日目	火	午前	【報告会】チャレンジプラン発表 【ネットワーキング】	プログラムでの学びや策定したチャレンジ・プランを、日本国大使館、派遣国政府機関、現地の交流関係者等へ向けて報告する。また、各機関のキーパーソンとの人的ネットワークを構築する。
		夕方	帰国準備、派遣国を出発	
12日目	水	終日	日本へ帰国、解散	

※プログラムの内容・日数等は変更が生じる可能性があります。